

# 中越地域の復興は日本国土の課題 中山間地の災害復興の “モデル”をともにつくろう！

専門家や行政の連携だけではなく  
事業を充実させるためには、  
みなさんの参加と協力が必要です。

## 会員募集中！

中越地震の復興・地域づくりなど、中山間地域における  
災害復興のモデルケースの実現に  
賛同・協力していただける会員を募集しています。



# この新たな発想が日本の地域づくりを変える！

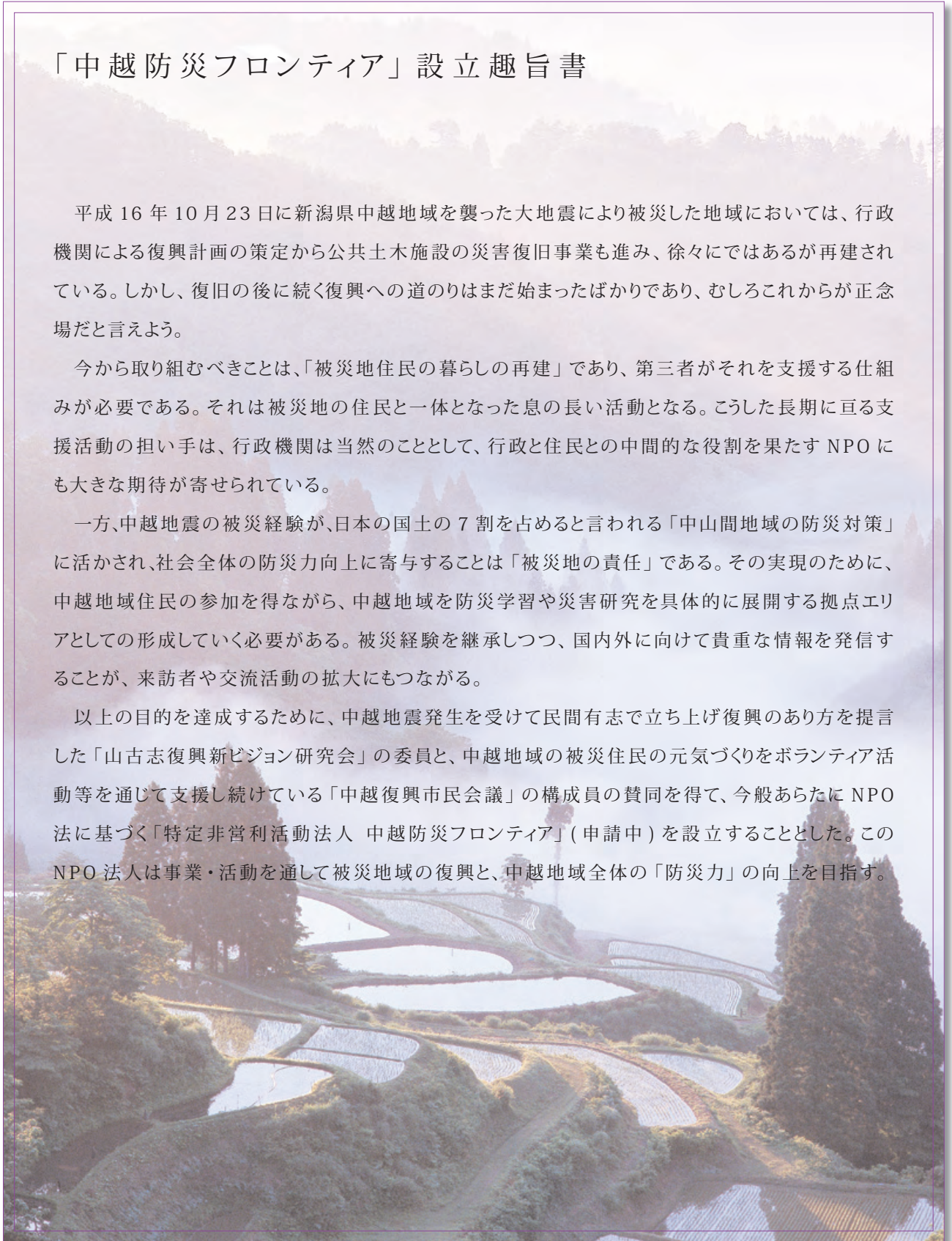
## 「中越防災フロンティア」設立趣旨書

平成16年10月23日に新潟県中越地域を襲った大地震により被災した地域においては、行政機関による復興計画の策定から公共土木施設の災害復旧事業も進み、徐々にではあるが再建されている。しかし、復旧の後に続く復興への道りはまだ始まったばかりであり、むしろこれからが正念場だと言えよう。

今から取り組むべきことは、「被災地住民の暮らしの再建」であり、第三者がそれを支援する仕組みが必要である。それは被災地の住民と一体となった息の長い活動となる。こうした長期に亘る支援活動の担い手は、行政機関は当然のこととして、行政と住民との中間的な役割を果たすNPOにも大きな期待が寄せられている。

一方、中越地震の被災経験が、日本の国土の7割を占めると言われる「中山間地域の防災対策」に活かされ、社会全体の防災力向上に寄与することは「被災地の責任」である。その実現のために、中越地域住民の参加を得ながら、中越地域を防災学習や災害研究を具体的に展開する拠点エリアとしての形成していく必要がある。被災経験を継承しつつ、国内外に向けて貴重な情報を発信することが、来訪者や交流活動の拡大にもつながる。

以上の目的を達成するために、中越地震発生を受けて民間有志で立ち上げ復興のあり方を提言した「山古志復興新ビジョン研究会」の委員と、中越地域の被災住民の元気づくりをボランティア活動等を通じて支援し続けている「中越復興市民会議」の構成員の賛同を得て、今般あらたにNPO法に基づく「特定非営利活動法人 中越防災フロンティア」(申請中)を設立することとした。このNPO法人は事業・活動を通して被災地域の復興と、中越地域全体の「防災力」の向上を目指す。



2004年10月23日・中越地震発生！

# 被災経験を復興に活かす「中越防災フロンティア」。

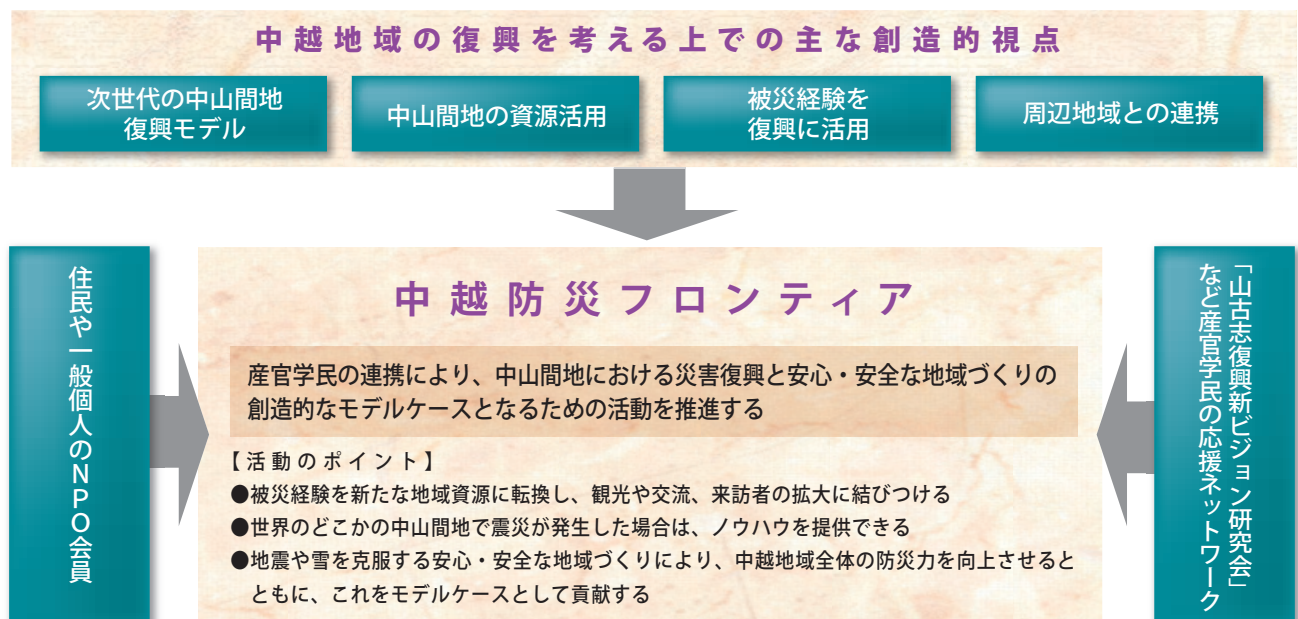
山古志地区をはじめとした、中越地域の中山間地域の資源を活用した  
これまでにない創造型の復興プロジェクトをみなさんとともに立案、推進します。

2004年10月23日に発生した中越地震は、中越の広範な地域に未曾有の被害をもたらしました。復旧・復興は徐々に進んでいるものの、その道のりはまだ長く、これから取り組まなくてはならない課題もたくさん残されています。

日本の国土の約7割は中山間地域が占めていることから、「中越地域の復興」は、同時に、「中山間地域の災害復興をいかに成功させるか」と同じ意味合いを持っています。それだけに、山古志地区をはじめとした中越地域の復興は、日本の国づくりのあり方が問われているといっても過言ではありません。

「中越防災フロンティア」の活動では、地域の物理的な再生・再建とは異なる視点で、地域のみなさんが将来に希望を持てる、新たな地域づくりの方向性や計画を希求していきます。豊かな自然と資源に恵まれた中山間地域に人々の暮らしから無理なく広がる、復興プロジェクトを地域のみなさんとともに立案、推進します。まさしく、復興について前例のないフロンティアに挑むのが、「中越防災フロンティア」の活動です。

## ■ 中越防災フロンティアの活動概念図





# 産官学民の連携により、被災前よりも活力と魅力

## 防災の先進エリアにふさわしい中越地域を目指した主な活動

中越地震の被災体験を活かして、中越地域の防災学習や災害研究の拠点エリアとして情報発信を行うとともに、山古志地区などの中山間地の資源を活用して新しい発想による地域づくりを進め、新たな産業の創出や交流の拡大を目指します。過去の地域の姿にとらわれない発想で、被災前よりも活力と魅力、そして希望のもてる中山間地域のモデルエリアを形成します。

### 1 災害アーカイブス

中越地域を中心に、これまでに発生した災害に関するあらゆる情報を収集・整理します。そうした情報を加工し、災害や防災に関する情報を発信するとともに、防災研修用教材を作成するなど、災害・防災研究への活用を図ります。



ホームページを活用した防災や地域情報の情報発信

### 2 防災視察・研修・学習

行政職員や自治組織を対象とする防災視察を企画、ガイドします。そのために必要となるツアーマップやガイドブックを製作するとともに、視察ツアーをコンダクトする「ガイド」や「語り部」の養成にも取り組みます。また、子供たちには、体験しながら防災を学ぶ学習機会を提供します。



防災視察マップの製作

# のある、新しい地域づくりに挑戦しよう！

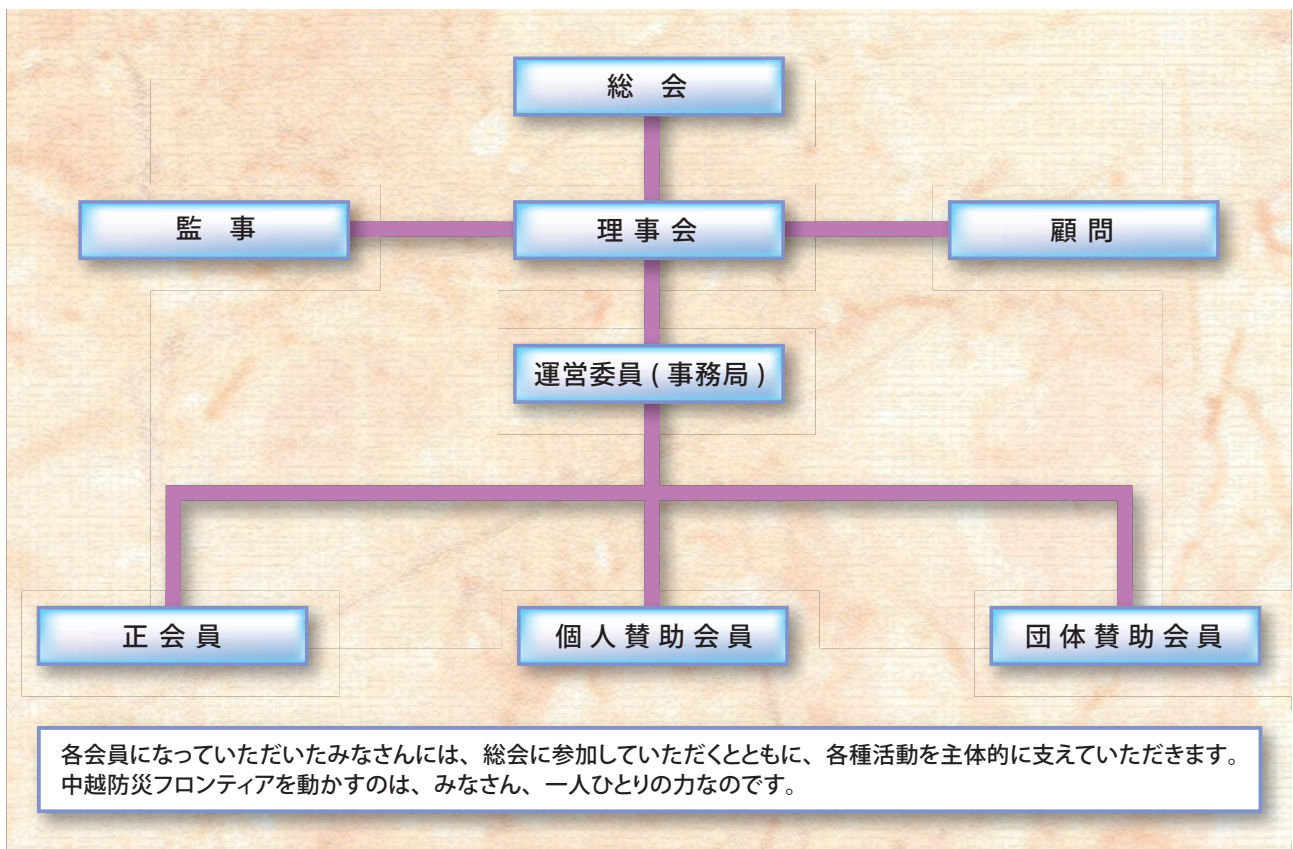
## 3 地域資源・環境の再認識、保全、活用

棚田は、いまや数少なく残された日本の原風景の一部です。震災により被害を受けた景観や農地の整備はもちろんのこと、中越地域の地域資源や環境を再認識し、保全と活用により、失われた生活文化を取り戻します。また、「はさがけ米」や野菜、山菜などの農産物等を中越ブランドとして全国に発信するなどして、被災地の復興を支援します。



中山間地の原風景『棚田』

### 活動を推進するための組織図





# 被災経験を新たな発想で復興に活かす活動に参加してみませんか？

## - 中越防災フロンティア 入会のご案内 -

「中越防災フロンティア」の活動、運営を支えていただける正会員／個人賛助会員／団体賛助会員の各会員を募集しています。みなさまのご参加をお待ちしています。

### ■参加資格

災害復興と地域づくりの活動に関心のある18歳以上の方なら、どなたでも参加できます。

### ■会員の特典

会員になっていただいた方には、「中越防災フロンティア」が主催するイベント・視察会・講座等のご案内をいたします。

### ■会費（年間）

正会員 5,000円

個人賛助会員 3,000円

団体賛助会員 10,000円（一口以上）

### 《参加希望、またはお問い合わせの方は下記までご連絡ください》

中越防災フロンティア 事務局

〒940-0861 新潟県長岡市川崎町2249番地1

TEL:0258-32-3484 FAX:0258-32-3351

ホームページ <http://www.yamakoshi2004.jp> e-mail: [webmaster@yamakoshi2004.jp](mailto:webmaster@yamakoshi2004.jp)

## 中越防災フロンティアの概要

### ■目的

山古志地区をはじめ、中越地域での被災体験と復興の過程は、今後、世界のどこかで同じような事態が起きたときに役立つ教科書となるはずです。「中越防災フロンティア」は、山古志地区をはじめとした中越地域の復興そのものが、安心・安全なモデルエリアとなるための活動を推進するNPO法人として申請中の組織です。

### ■活動予定

まちづくりの推進を図る活動、環境の保全を図る活動、経済活動の活性化を図る活動、学術・文化・芸術又はスポーツの振興を図る活動、職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動、社会教育の推進を図る活動、ほか。

### ■役員（就任予定者／敬称略）

【顧問】 伊藤和明 [NPO 法人防災情報機構会長]

木村拓郎 [(株)社会安全研究所所長]

【理事長】 丸井英明 [新潟大学災害復興科学センター教授]

【副理事長】 丸山結香 [(有)MAX・ZEN performance consultants 代表取締役]

【理事】 伊藤忠雄 [新潟大学副学長・災害復興科学センター長]

稲垣文彦 [中越復興市民会議事務局長]

江村隆三 [元新潟経済同友会筆頭代表幹事]

大川秀雄 [新潟大学工学部教授]

金子武夫 [(財)いいがた産業創造機構常務理事]

上村靖司 [長岡技術科学大学機械系講師]

澤田雅浩 [長岡造形大学環境デザイン学科講師]

高野 裕 [(株)パートナーズプロジェクト代表取締役]

西澤輝泰 [新潟大学経済学部教授]

野村敏雄 [(社)北陸建設弘済会 NPO 研究委員会委員長]

原 敏明 [事業創造大学院大学研究科長]

樋口榮治 [長岡商工会議所専務理事]

平井邦彦 [長岡造形大学教授]

深澤大輔 [新潟工科大学建築学科教授]

福田伸宏 [(社)北陸建設弘済会 NPO 研究委員会委員]

松本昌二 [長岡技術科学大学環境・建設系教授]

丸山暉彦 [長岡技術科学大学環境・建設系教授]

宮寄光弘 [(社)北陸建設弘済会 NPO 研究委員会委員長]

和田 惇 [(社)北陸建設弘済会理事長]

※五十音順